

株式会社広島食彩

〒731-0215 広島市安佐北区可部町南原77-1

☎082-818-7700

会社概要

沿革

創立は昭和40（1965）年。当初は「株式会社可部給食センター」の社名で操業、職域弁当を主に製造。

昭和63（1988）年より順次資本金を拡大、現在は3,000万円。

平成9（1997）年5月、社屋移転・工場新築を機に、現在の「株式会社広島食彩」に社名を変更。1日に8,000食以上の製造が可能な衛生生産管理システムで企業向け弁当や学校給食の製造、仕出しなどの業務を行っています。

障害者雇用優良事業所表彰

広島県知事表彰（平成11年）

厚生労働大臣表彰（平成13年）



雇用状況

従業員数 84名

うち障害者数 10名

（平成13年8月現在）

事業の概要

職域弁当の製造・販売

広島市学校給食事業協同組合の委託業務（学校給食の製造）

デイケア用弁当の製造・販売

相手先の厨房での食事委託業務

折詰・仕出しなど



商品の一例。上は会席膳30、右は集



障害者雇用に向けて

会社設備

平成9（1997）年に新築された新工場は、設計段階から障害者雇用を視野に入れてつくられています。

日本障害者雇用促進協会の基準を参考にし、バリアフリー環境を実現。通路を広くとり、階段には手すりを完備しています。

同時に衛生面ではHACCP（危害分析・重要管理点）の概念を導入しています。

パイプやコード類は床、足下から完全に遠ざけられ、天井に配線されています。地下を通るのは排水だけとなっています。

床の色が緑色（清潔区域）と黄色（汚染区域）に塗り分けられています。前者のエリアでは食品の製造のみが、後者のエリアでは使用済みの食器や残飯などの処理が行われています。この二者は物理的に分離され、間違っ

て黄色 緑色へモノが移動する可能性を極力排除しています。モノと人の流れが重複しないよう、食材の搬入 製造 製品の出荷、返却食器 洗浄の流れは一方通行となっています。これも非衛生物が衛生物にま

ぎれ込む可能性を物理的に排除するものです。、 の設備により、衛生面で高い基準を維持するための精神的負担が大幅に軽減し、知的障害者の進出する機会が広がっています。



この冷蔵庫には壁の裏の部屋からのみ食材が入られ、こちら側で取り出して盛り付けに回す「一方通行」が確保されています



制度・福利厚生

福祉施設（太田川学園）のグループホームから通っている5人に対し、タクシーでの通勤（相乗り）を認め、そのタクシー代を会社が負担しています。月3～3.5万円とコスト的にも過剰でなく、また遅刻や欠勤の軽減にも効果があります。残りの人はバスを使ったり、他の従業員の車に相乗りするなどしています。

新工場には更衣室やシャワー室が設けられ、トイレにも手すりが設けられています。

休憩室は靴を脱いでくつろぐことができ、障害者の疲労軽減に役立っています。

Top's Interview

障害者の雇用は、可部給食センターだった時から続いています。平成9年に現在地の新工場に移りましたが、それまでは可部の中心部の工場で操業していました。当時は工場の設備が古く、いろいろと大変でしたが、それでも障害者の自立のお役に立てるなら...との思いで雇用を続けてきました。思うのですが、一生懸命仕事をして、能力を伸ばしていく以上、障害のある人もない人も変わらないですね。とにかく今は、今いる障害者の方たちの「自立」が先決。新工場をフルに稼働させて、雇用を広げていきたいですね。



代表取締役
沖 達郎さん



副社長 鴨田 忠興さん

鴨田副社長は新工場の設計に中心となって携わり、日常の業務を一身に担われています。「障害のある人に楽な環境は、ない人には当然、もっと楽。そのことで作業効率も上がり、衛生面でも安全性が高まります。HACCPや日障協の基準をクリアする工場にしたのは、そういった企業としての具体的なメリットがあるからです」。設計にあたっては病院の構造も参考にし、衛生面向上をはかったとか。

また、鴨田副社長は企業人として、障害者雇用の現実面も語ってくださいました。「社長の言葉に付け加えるならば、当社と同じように障害者を雇用していらっしゃる企業と付き合いができる。そうすれば取引も拡大するかもしれない。障害者雇用にはそういった目に見えるメリットもあり、企業として当然考えておくべきことです」。

取締役

沖 親子さん

沖さんは広島食彩で事務をされて13年になりますが、連絡事項を皆に伝えるなど全体の統括も担われています。「障害者の人...といってもあまり意識したことがないんですが、細かいこともしっかり伝わるし、いつも一生懸命仕事をしている印象がありますね。中途半端な仕事はしないというか」。若い従業員の方に優しく声をかける態度が印象的でした。



事務

福田 和子さん

福田さんは勤務されて4年。やはり障害者をことさらに意識したことがないとか。「知的障害の方が多いんですが、コミュニケーションにちょっと時間がかかるくらいで、あまり意識しないし、特に困ったことはないですね。皆明るくて、あいさつもしっかり返してくれます」とのこと。二十歳の娘さんがいますが、福祉の専門学校に通っていらっしゃるそうです。

TOPICS

福利厚生面での取り組み

バスを借り切ったの社員旅行を行っています（京都、高知、山口など）

障害者の社員同士で結婚されたカップルもあり、現在も夫婦で勤務されています。



神谷一成さん（29歳）と圭子さん（26歳）、3年ほどのおつきあいの後、97年12月に比治山神社で挙式されました。デートでは呉ポートピアランドなどに行かれたとか。結婚して変わった点は？ の問いに一成さんは「張り合いが出ました」との答え